

首都圏西部スマートQOL(Quality of Life) 技術開発地域

首都圏西部地域の産業特性を活かした「産学官金の知の統合」によるSQOL技術の創出・事業化

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…首都圏産業活性化協会
 学…首都大学東京、電気通信大学、東京農工大学、埼玉大学、青山学院大学、芝浦工業大学、東洋大学
 官…埼玉県、東京都、さいたま市、相模原市、東京都立産業技術研究センター
 金…西武信用金庫

地域イノベーション戦略

首都圏西部地域に集積するイノベーション支援型産業、先端技術を牽引する大学・研究機関および関係機関による「産学官金の知の統合」を行い、グリーンイノベーションおよびライフイノベーションを促進します。個々の状況、多様な個別ニーズにも適合した暮らしの質を向上させるSQOL技術を次々に創出することにより、都市課題の解決と持続的に発展可能な活力ある地域づくりに貢献し、さらにグローバル市場へSQOL技術の普及・拡大を推進します。



プロジェクトディレクター
岡崎 英人

略歴：相模原市産業振興財団事務局長を経て、平成13年より首都圏産業活性化協会事務局長、平成25年、専務理事就任。

首都圏西部地域が、世界有数のライフイノベーション・グリーンイノベーションの新産業創出拠点となることを目標に、多数の優秀な中小企業、理工系大学が集積する特性を活かしつつ、産学官金の人的ネットワークを効果的・機動的に活用し、産学・産産連携による新事業創出活動を支援しています。特に、海外も含めた「広域的な連携」や、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発につなげるための支援活動に注力しています。

事業の内容

【全体計画及び成果】

研究者集積・知のネットワーク構築の成果：

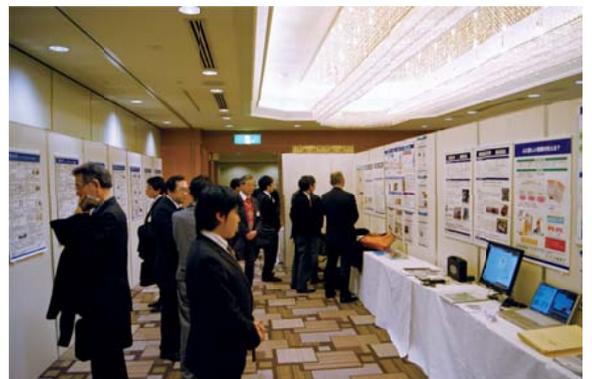
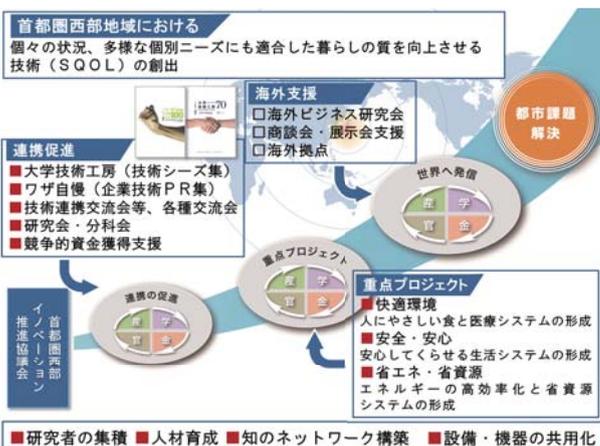
企業との連携で競争的資金を獲得し、SQOL技術開発案件が多数進展しています。重点プロジェクトを中心に個別案件のユニット化、システム化を進め、事業化のステップを目指していくための基盤を築いています。また、SQOL案件の発信により海外との連携を進めています。

人材育成・設備共用化の成果：

センサーとICTのeラーニング専門講座、ライフイノベーション技術講座、海外福祉機器開発研修プログラム等を開設し人材育成を図っています。また、各大学が保有する研究設備・機器等の共用環境を整備して、地域の中小企業等による活用を促進しSQOL技術開発を進めています。

【実施する支援メニュー】

1. 地域イノベーション戦略の中核を担う研究者の集積 (実施機関：首都大学東京、電気通信大学)
 先端技術に知見があり戦略技術を生み出すために最適な研究者を招聘して、SQOL技術の創出をめざします。
2. 地域イノベーション戦略実現のための人材育成プログラムの開発及び実施 (実施機関：電気通信大学、埼玉大学、芝浦工業大学)
 電通大：eラーニング開発、埼玉大：AMI人材育成プログラム開発、芝浦工大：SQOL技術人材育成
3. 大学等の知のネットワークの構築 (実施機関：首都圏産業活性化協会)
 連携案件のマッチングを促進し、重点プロジェクト、SQOL技術の創出に取り組んでいます。
4. 地域の大学等研究機関での研究設備・機器等の共用化 (実施機関：埼玉大学、東洋大学)



首都圏西部 シンポジウム2014 展示コーナー